

栄村自然植物園  
に行こう！

# 秋の花が見頃です

北野天満温泉の近くにある栄村自然植物園。村内の様々な植物を集めた園には春、夏、秋と季節ごとに可憐な花が所々に咲きます。今年も、草刈りなどの管理をしてくださる村内ボランティアの数も増え、村外から東急建設さんが来てくださるなど活動も活発化しています。暑さもだんだん落ち着いてきました。ぜひ植物園をゆっくり散歩し、北野天満宮にも行ってみませんか？盆花のオミナエシや、花も茎も白いカワラハハコ。里山に咲くツリフネソウなどが見頃です。

草刈りなどのボランティアも随時募集中です。昨年度、ジオパークの中沢英正先生が植物園を歩き、きれいな地図も作ってくれました。そういった植物をよく知っている先生方もよく来られるので、山のこと、植物のことなどこれから知っていききたい！という方にもおすすめですよ!!お気軽に栄村公民館にお問い合わせください。



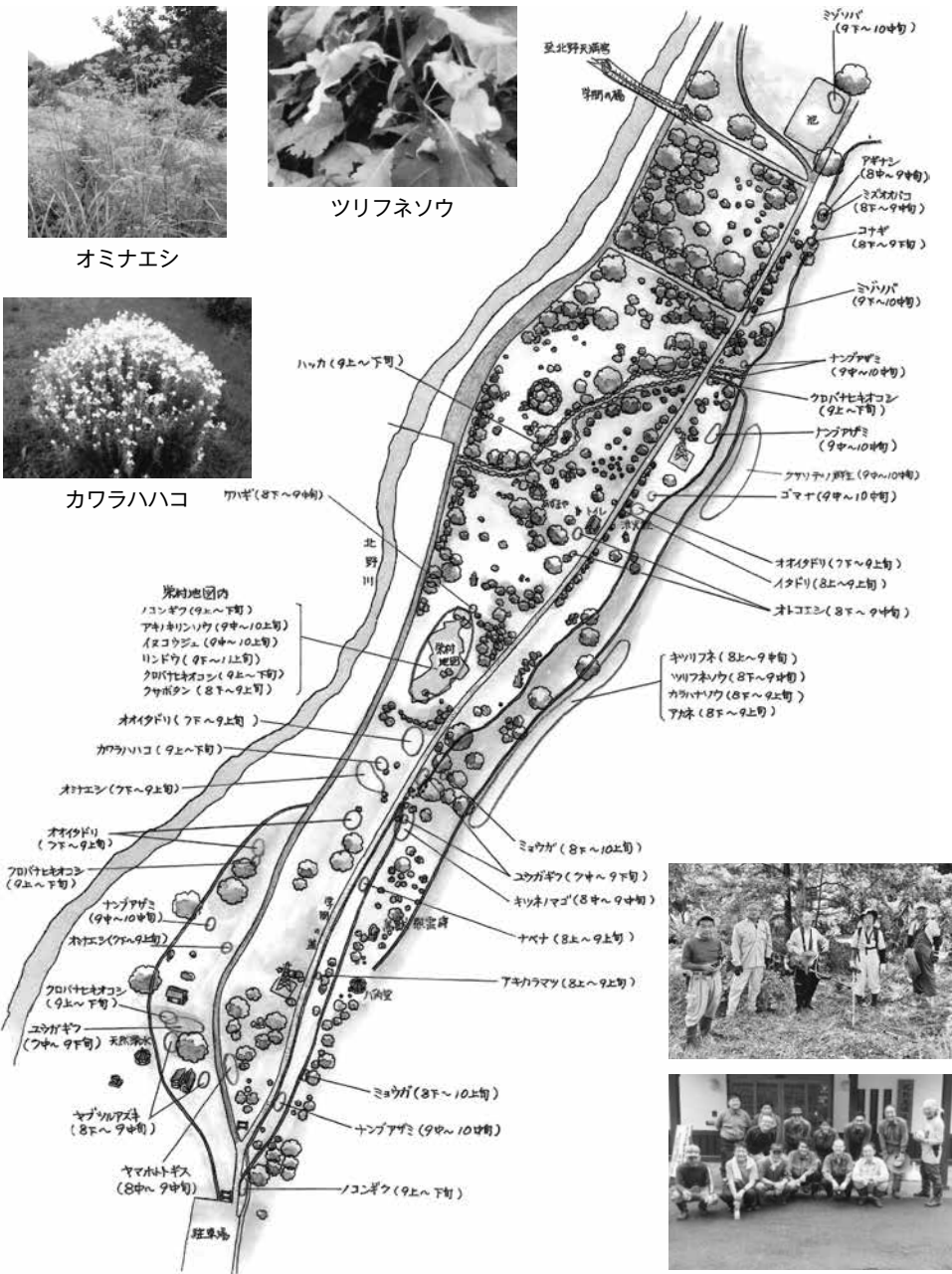
オミナエシ



ツリフネソウ



カワラハハコ



ジオパークで作成された植物園の花マップ (秋)



植物園作業チームと  
村内村外ボランティア

# 公民館報

# さかえ

## 第354号

令和5年9月1日発行

発行  
栄村公民館  
〒389-2703  
長野県下水内郡栄村  
大字堺9214-1

電話  
0269-87-2100

編集  
栄村公民館報編集委員会

# スポット!

楽しい人生に趣味は欠かせない!  
 家のことに百姓仕事、地区行事もいろいろ  
 ある。そんな日常の中で趣味を持ち、  
 いきいき輝く方にスポット!  
 その楽しさ・魅力を発信します。



今回のスポットはジオパークガイド  
 をやっている小滝の中沢謙吾さん。

## 地域の魅力を少しでも知って もらいたい

謙吾さんは栄村の小中学校での地  
 域学習や観光ガイドなど、精力的に  
 地域のことを発信し続けています。  
 きっかけやこれからの夢を聞きに伺  
 いました。



### 地域の魅力を伝える活動 を始めたきっかけは?

きっかけは12年前の地震でね。栄  
 村は地震が来ないところだと思っ

いたの。色々調べて、地震には地質や  
 地形が関わるということを知った。  
 その時ちようど苗場山麓ジオパーク  
 の立ち上げがあったので、関わろうと  
 思ってジオガイドの勉強をしたんだ。

そしたら、自分の知らないこの地  
 域のことがたくさん次から次へと出  
 てきて、はまっちゃったというのが  
 のが最初かな(笑)。

60年生きてきて、地元のことを何  
 にも知らないということに気づいた  
 んだ。それまでは牛飼いをやってい  
 たので、仕事中心に考えると「なん  
 てよくない場所だろう」と思ってい  
 たよ。いいところを全然見ていなか  
 った。

ジオ活動を通じて考えが変わって  
 いったね。素晴らしいところだと思  
 ったし、外との交流の中では自分た  
 ちのいいところを知らなければアピ  
 ールもできない。これは徹底的に地  
 域を学ぶ必要があるな。そういう  
 考え方になると、今まで見えてなか  
 ったお宝が見えてきて、すごく面白  
 かったな。



### 以前お話を聞いたとき、 No.1ガイドになりたいと いう夢を聞きましたが、 ガイド活動の魅力は?

結局自慢話なんだよ(笑)。地域  
 の自慢話。自慢できることが多くて、  
 それをどう伝えるかというのをずっ  
 と考えてきた。故郷の自慢話を、都  
 会の人に伝える。栄村の豊かさは新  
 鮮だし、あこがれだよ。話した相  
 手が「ハッ」として、新たな発見を  
 したということに感動する時が一番  
 うれしいかな。

### 今一番やりたいことは?

この地域のすばらしさを少しでも  
 知ってもらいたいというのが一番か

な。観光客じゃなくて、地域の子供  
 たち、大人たち。それなくして、地  
 域の活性化はあり得ないだろうし、  
 少しでも役に立てれば、栄村も多分  
 変わると思ってる。

面白い話だと、例えば栄村は縄文  
 時代は日本のどこよりも暮らしやす  
 くて「縄文銀座」だった。これは國  
 學院大學の小林先生の受け売りだ  
 け、栄村は食料を得ることがとても  
 しやすい、森と共生して生きる縄  
 文人が、日本の中でこの地域を選ん  
 だ、日本一の地域。それを突き詰め  
 ていくと、今私たちがやっている山  
 菜の食べ方も縄文人がほとんど編み  
 出したりしていて、それを親やばあ  
 ちゃんがかうやってたって、引き継  
 いでいる。この地域の皆が縄文の技  
 を四、五千年前から伝承している。  
 これってすごいことですよ。

そういうお宝の話、いろいろある  
 んだけど、私を知ったり、見つけた  
 りするのはほんの一部で、深掘りも  
 できない。だから、子ども達には興  
 味を持ったら色んなものの専門家に  
 なってくれってお願いをしているん  
 だ。

楽しそうに地域の魅力や夢を語っ  
 てくれた謙吾さん。来月号から「お  
 ら村の宝」コーナーを謙吾さんに紹  
 介してもらうこととなりました。よ  
 ろしくおねがいしまーす!!

# 栄村風土記

⑧

〜永遠に残したい  
栄村の暮らし〜

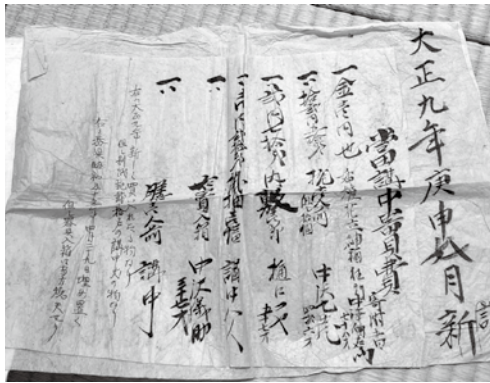
時代の移り変わりとともに村民の暮らしも変容しています。ここでは、後世へと伝えたい、栄村の文化を紹介합니다。

## かねさま

60年に一度来る、かねさま(庚申講)のことを覚えていますか？前回は1980年(昭和55年)に行われたので、次は2040年に行われます。17年後ですね。

かねさまは60日に一度、60年に一度など、干支の庚申(かのえさる)の日や年に行います。60日に一度行っていたかねさまのことを覚えている方も多いと思いますし、まだ秋山では行っている講中(集落の中のグループのようなもの)もあると聞きます。

栄村では60年に一度のかねさまの時、各集落にある「庚申塔」の下に埋めた、60年前のタイムカプセルを掘り出します。小滝にはその時に掘り出した酒壺や古文書が残っています。酒壺には60年前の酒が入っていて、何かドロツとしたものを飲んだ覚えがある、という方もいました。



小滝で出たタイムカプセル。酒器や古文書など。昭和55年に掘り出されたので、大正9年のもの。

その時に何を埋めたのか…。掘り出してみるのが楽しみでわくわくしますね。

長瀬などではウイスキーを埋めたと聞いたのでうまく熟成されていけば高級なウイスキーが飲めるかもしれません。

60日に一度行うかねさまでは、「ひら」や「せえ」などのごっつおを作り、徹夜で宴会をしています。

なぜ徹夜なのかというと、中国から来た信仰が仏教にも混じったようなのですが、人のおなかにいる三尸(さんし)という虫が、庚申の日の夜に、寝ている人の体から抜け出し、天に上り、天帝にこの人悪いことしてますよ、と告げ口をするのだそうです。それを防ぐために寝ずに徹夜で宴会をするとのこと。

真剣にやると大変そうですが、60日に一度飲み会ができると思えば、好きな人には楽しみだったのでしょうね。

昔のことを調べていたら、公民館報の縮刷版や青倉で作った集落マップなどに、かねさまのことが載っていました。各集落の公民館にもいろいろと残っていると思いますのでぜひ17年後を気にして皆さまも探してみてください。

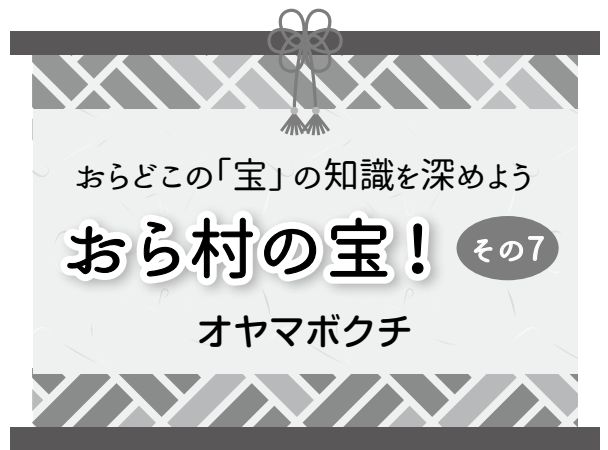


色々な時代に建てられた志久見の庚申塔。ニワトリや猿が描いてあったりと可愛い。よく見ると猿は「見ざる聞かざる言わざる」になっているなど、行動を慎み深くすることで人生を安全幸福にできるとされた。特に古いものは青面金剛(せいめんこんごう)という神様が描かれています。



栄村の蕎麦の最大の特徴は、オヤマボクチとふのりをつなぎとし

「面白い。なんでかわからんけど面白い」  
 広瀬一治さんはそう言って笑った。



「こういのが、いいんだよな」と作業所へ運びます。  
 畑へ、朝夕の涼しい時間に行き、オヤマボクチ一枚一枚の表裏をよく見て、適したものを採取し作業所へ運びます。

2007年から3年間蕎麦打ち教室に通ったのがきっかけで、栽培を始めたプロフェッショナル。蕎麦も自家栽培を始めたといいます。ご自宅には一治さんが自らこさえたという蕎麦打ち道具も！一時期は小学校にも先生として教えに行っていたこともあったそうです。

て使っている独特なものであることは、令和5年3月号のおら村の宝！その6で取り上げました。それでは、オヤマボクチって何？と尋ねられたら、どうでしょうか？  
 オヤマボクチは、キク科ヤマボクチ属の多年草で、山菜としてヤマゴボウと呼ばれたりもします。花はアザミに似ていますが、色はアザミより渋い感じですよ。  
 村内でオヤマボクチを栽培している方はごくわずか。その中で今回は横倉の広瀬一治さんに話を伺いました。



畑のオヤマボクチ

えてもらいましたが、素人目にはよくわかりませんでした。栽培に關してまだわからないところもあると、おっしゃっていましたが謙虚な姿勢と意思が伝わってくるようでした。  
 作業所には、ずら〜っとオヤマボクチが丁寧にまとめて干されています。まるでオヤマボクチの暖簾状態。  
 それが乾くと箱に保管。また収穫、乾燥、保管。  
 そして、9月頃。保管していた葉のゴミを拾い、煮る工程へ。煮て繊維を取り出す作業は、「5時間かかる」と奥様。「煮るだけ2時間」と一治さん。ゴミはしっかりとっておかないと色が悪くなることも含め、いずれにしてもたいたいそう時間がかかるということは解りました。  
 できあがったものは、淡いグレイ色のまるでベルベットのような



繊維になったオヤマボクチ

肌触り。滑らかでふわっとしてほぼ無臭でした。100g作るのに、約10kgの葉が必要なんだそう。どれもこれも手間暇のかかることです。  
 「大変なんそ〜」それでも「面白い」。なんでかわからんけど面白い。  
 希少な植物と希少な食べ物と希少なひと。おら村の宝。  
 オヤマボクチの販売価格がやっとながったそうです。希少価値に見合った豊かさが、作り手と受け手の両方に循環して、栄村独自の面白い豊かさに共振した仲間と共同創造していける、これから先を応援していきたいと思いました。

# 『元文五年の村定法 その3』

あーそんなことがあったんか  
〜ど先生の栄村昔語り〜 其の五十八



地域史料保全有志の会  
鈴木 努 (通称：ど先生)  
イラスト作成：佐藤洋平

とんでもない猛暑続きの毎日、お変わりなくお過ごしでしょうか。以前どこかで夏が暑く少々日照りの方が美味しい米が穫れる、ということ聞いたことがあります。今年度は超した状況のようです。無事に実りの時を迎えられることを切に願います。

前回に続き、村定法を読んでいきましょう。第二条の酒の請売り禁止は後で改めて検討しますので、今回は第三条を見てみます。内容は次の通り、桑・楮の盗み取り禁止と罰則について、『栄村誌』歴史編にも

詳しく紹介されています。

一、持ち分の古畑に植え付け置いた桑・楮の外は一切取らないこと。万一余人の植え付け置いたものを盗み取った見合(発見)次第に毎度、定め置いた通り一貫文づつ過料(罰金)を急度(必ず)取り立てるべきこと。若し(知って)見逃したら盗賊と同罪と断じて見逃し過料五〇〇文ずつ急度指し出すべきこと。

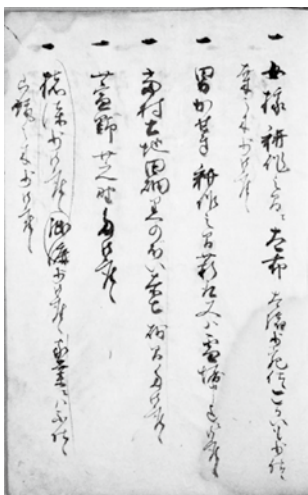
自分の畑に植えた桑・楮以外は取ってはならず、破つたら罰金を取る、という内容です。一貫文は当時の相場で一両の四分の一で、今風に言うると二万円以下の罰金くらいに相当するようです。こうした盗伐が起きる事情には、内山紙の増産とともに楮の商品価値が上がったため、と考えられています(『栄村誌』)。

桑・楮の植え付け場所を「古畑」と言っているのはなぜか。辞書では古畑は「古く荒れ果てた畑」を指す

言葉で、字義通りとすると穀類や野菜を作らなくなった畑に楮などを植えたことになり、収穫まで五、六年かかる楮を植えるには古畑が適当だったのでしょう。また田畑勝手作禁止令(近年は禁令の存在を疑問視する説もあります)が享保二〇年(一七三五)の田方勝手作仕法の発令などで緩和された時期でもあり、畑方四木の内である楮の作付けが始まったとも考えられます。元文四年(一七三九)の村差出帳に「紙漉少し御座候、家業には仕らず候」とあり、冬場の副業に紙漉きをし少々でも稼ぎに充てる様子が窺えます。すから、盗伐した楮は自家の紙漉きに使うか、または楮皮にして買い手に流したのでしょう。桑も、村差出帳に「こかい(蚕飼)も少々御座候」とあり、需要のある品物でした。作物の盗み取りは自村だけの問題ではありませんでした。上総国長柄郡刑部村の事例ですが、村法で「特に綿などは他谷他村まで仕付けているので心得違ひのないように」と定めており、他村との争論を生じかねないうえ、もし他村の者の行為を見逃せば自分の責任が問われる等、実に厄介なものでした。

村法に作物の盗み取り禁止と罰則を設ける事例はほぼ全国で見られます。特に近世後期は人

口流出など農村の荒廃が進み、不作も加わり、多くの村で盗伐盗難に頭を悩ませていました。罰則も、連帯責任で五人組にまで過料を科すもの、村中引き回しの上で五人組に引き渡すものなど様々あり、過料の額は一貫文から三貫文くらい、見逃した者への過料も一般的に行われませんでした。なお飢饉など緊急時には罰則が強化され、箕作村の天保飢饉の際の「小前取極」では村方追放を課す(代わりに小前から村役人に、役所への届けはうまく取り計らうよう暗に求めた様子が窺えます)ことになっていました。また東北地方のある藩領では「吠かぶり」という極刑があったといえます。現代でも農産物盗難の報道を毎年のように耳にします。防犯を専門とする企業などでは、不況による失業・農作物の価格高騰・新たな流通ルートの開発が原因と分析しており、事情は変わっていないような印象を受けます。続きます。



元文四年箕作村差出帳(5条目) 楮、紙漉き

# 栄村公民館 図書室だより

..... 2023.9 .....

連日、暑い日が続いておりますが、村内の畑には日よけ対策でしっかり帽子などで頭と顔を被い、テキパキ畑仕事をされている方がたくさんおられます。お身体に充分注意してお過ごしください。

## 新着図書を紹介

とにかく仕組み化 —— 人の上に立ち続けるための思考法 (安藤広大)  
 認知症の人を元気にする言葉かけ・不安にさせる言葉かけ (尾瀬順子)  
 師匠はつらいよ 藤井聡太のいる日常 (杉本昌隆)  
 ぼくはあと何回、満月を見るだろう (坂本龍一)  
 くもをさがす (西 加奈子) / 古事記転生 (サム)  
 夜果つるところ (恩田 陸) / 鈍色幻視行 (恩田 陸)  
 時計泥棒と悪人たち (夕木春央)



### 『栄村公民館図書室の本の貸し出しについて』

図書室に来て気になる本をぜひ借りてください。

- ★利用可能者    どなたでもご利用できます
- ★貸出冊数     1人5冊 (新刊は2冊まで)
- ★貸出期間     2週間
- ★返却          図書室のカウンターにお持ちください

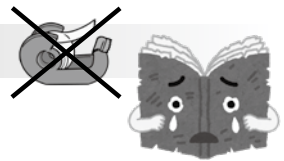


### 『寄贈について』

資料 (本) を寄贈したい方は相談の上、図書室までお持ちください。資料の内容・状態によりお断りすることもあります。また、図書室の蔵書になるかどうかなどの判断を公民館にお任せいただける方に限ります。

### 『図書の破損等について』

借りた本を破いてしまった時は直さず職員にお知らせください。特にセロハンテープなどは経年劣化で変色するため絶対に使わないでください。



## ★図書ボランティア募集中!★

栄村公民館図書室では土日の午前中、図書室を開けてくださるボランティアさんを募集しています。読書の習慣もできますよ。栄村在住の成人している方ならどなたでもできます。1~2か月に1度の当番です。お問い合わせは栄村教育委員会事務局 ☎87-3118までお願いします。

### ★栄村図書室開放時間★

平日 午前8時半~午後5時  
 土・日 午前9時~正午  
 ※祝日は休館します

### ★休館日のお知らせ★

9月16日(土)~18日(月)  
 9月23日(土)~24日(日)  
 10月7日(土)~9日(月)

### ★お知らせ★

返却していない本をお持ちの方はなるべく早くお返してください。諸事情で図書室に来られない方は連絡してください。(☎87-3118)



フットサルクラブのみんな(下段左から2番目が私です)

岡 一太さん (箕作)

私はさかえスポーツクラブで、フットサルをしています。

フットサルクラブ発足11年目となりました。

私は、若い時からフットサルが好きで、仲間と楽しんできました。

子供たちからフットサルやりたい!と声上がり、楽しく体を動かそうということで始めました。さかえスポーツクラブにも所属させて頂き、子供たちと毎週楽しく活動をしています。練習だけでなく、サッカー観戦や、フットサル観戦も計画しています。

練習の見学や、観戦ツアーに参加して頂きフットサルを身近に感じてみてください。

お待ちしております。

おおきくな〜れ



MER救急救命士になりたい

のあ 叶心さん (5歳)

人思いの心優しく、明るく、元気な子です。 齋藤綾奈さん宅 (切欠)



楽しくおいしく 食育推進!

親子お菓子作り教室



8月9日、民生課と協働で親子お菓子作り教室を行いました!講師はなんと飯山市のパティスリー・ヒラノの平野さん。小学校の先生のご協力も得て、お呼びすることができました。季節の果物ということで、桃のパナコッタと、桃のクレープをつくりました。

子ども達は平野さんの手際にほればれ。見本を作るときにいい匂いが漂い、「おいしそう!」「早く食べたい!作りたい!」と声が上がっていました。親子で作ったパナコッタもプロのレシピ通りに作ると、きらきらと透き通り、おいしそう。「上手にできたね。」「意外と簡単でよかった」「今度家でも作りたい」と、親子の触れ合いも含めて楽しい会となりました。

今後も親子料理教室など開催していきたいと思っておりますので、ぜひご参加ください。



8月14日、白鳥の祭。後ろのシッポタンキが小林璃来さん

### 白鳥の祭 ~ 17歳の獅子舞~

小林 璃来

「人いないからやらなくちゃいけないって。頼まれてやらなきゃって。」獅子舞をやった理由を問うと、はにかみながらそう答えた。

17歳。白鳥の獅子舞は4年ぶりなので、初めての舞。今年は練習期間が短い上に都合もあり、延べ5日で本番となったそう。獅子舞が昔から好きで、小さいころ知人に譲ってもらった子供用の獅子をかぶり真似をしていたからこそ短い期間でもできた。

「最初から最後までやると体力がきつくて。はじめにバサバサやるところもそうだけど油単で腕上げ続けているのが一番つらい。」「楽しかったな。練習してできるようになって、人に見られてるってのが熱が入るっていうか。楽しかった。見に来てくれた友達もすげえな、よくやったなってめっちゃ言われます。」と話してくれた。

今回白鳥では頭が20歳、シッポタンキが17歳と栄村中でもこれだけの若手が舞う集落は他にはない。

来年や再来年もまたやるか聞いたところ「やりませう。」と即答だった。「こんだけ暴れる獅子舞なかなかないから、毎年見に来てほしい。毎年見に来たいと思ってくれるぐらいやりたい。」と話してくれるその笑顔と真剣さに、美しく光る未来を感じた。

### なんじゃこりや



志久見の方から連絡を受け、写真をいただくと実から葉っぱの生えたキュウリ。植物はすごいですね。

これを土に埋めるとキュウリからつるが伸びてくるのかな？

先日村民登山の下見で苗場山に登りました。雷の不安もありましたが当日は快晴で何とか濡れることもなく、安全に下山できました。当日は役場周辺でも急な暴風と雨・雹が降った日。

山小屋の方に聞くと、苗場山頂では、雷が縦ではなく横向きに落ちるとか。さすが標高2000m級。怖いですね。

ただやはりその中でも美しさはあり、夏の入道雲の白と晴天の青、そして湿原の緑と「映え」な一日を過ごしました。



### 今月の一句 ~ 栄村俳句会 ~

引き揚げの叔母の姿や敗戦忌  
昆虫の集いの場なり女郎花

関谷貞子

草も木も弱り果ててる猛暑かな  
秋の雲群青の空に漂えり

柳 静江

燕の仔秋澄む朝に出立す  
カシオペア同じ夜空に稲光

豊田久美

甘酒のパワーに頼る酷暑かな  
この猛暑早朝だけは活きている

杉浦恵子

### 編集後記

今年のお盆は、毎年こんな感じだったなあ。とふと、思いました。帰省する人の多さや行われるまつり行事など、この数年やむを得ずできなかったことが、また再開できるように、楽しい雰囲気に戻ってきたなと感じました。いつも通りのお盆を過ごせたことが嬉しく、こっぴどく思い過ぎたことに当たり前だけ当たり前じゃなかったことに気付かされました。この先、またなにかあるかわかりませんが引き続き継続してできることは行い、加えて新たなこともできるようになると思うと、これが一層楽しみです。